



年寄「八十瀬」 のちに明治の女子教育者

八十瀬（1837～1915）は、16 歳から 35 歳までの 20 年間を奥女中として過ごし、慶応 2 年（1866）年から春嶽附の年寄となりました。父は、春嶽とも交流のあった儒学者の芳野金陵（1803～78）でした。和漢の教養をもち、和歌も堪能で、福井に移ってからは橘曙覧の指導を受け、その交流を伝える書簡が多く残されています。

明治期には、父と弟が営む漢学塾の分校として東京日本橋に裁縫学校を開設し、33 年間にわたって女子教育にあたりました（芳野菅子『常磐の古事』）。

- 1852 年（嘉永 5）6 月 奥女中として召し抱えられる
三之間勤め（常磐橋邸）
- 1855 年（安政 2）6 月 呉服の間格、次御雇
8 月 次
12 月 右筆介、来午年（1858）
御国御供被仰付
- 1859 年（安政 6）2 月 祐筆本役
9 月 錠口介 [年々 5 両]
- 1860 年（万延 1）8 月 錠口
- 1861 年（文久 1）6 月 若年寄介
- 1863 年（文久 3）3 月 正室の勇姫に従って福井城下に到着
- 1864 年（元治 1）6 月 若年寄
- 1866 年（慶応 2）6 月 年寄（大奥筆頭）
- 1871 年（明治 4）2 月 永御暇、月報 5 口（当分の間）
まもなく飯野吉兵衛と結婚し、娘を出産
ほどなく離婚
- 1876 年（明治 9）11 月 父と弟の漢学塾逢原堂（のちに私学逢原学校）の分校として裁縫学校を開設し女子教育に従事
春嶽による「雪彩蛍光」と父による「学半書舎」の額が掲げられていたと記しています。

芳野菅子

くま

もせ

そて

八十瀬